

創部40周年を迎え、心機一転。 あらためて存続と繁栄へ。



監督
知童健次郎

東洋伝拳法部は東洋から伝わる拳法という趣旨で、タイのムエタイを母体としています。キックボクシングといえば、今の格闘技として分かりやすいかも知れません。部が発足した昭和44年当時、キックボクシングは日本でも人気となり、沢村忠などのスターが生まれましたが、やがて衰退、今またK-1ブームを迎え新しい格闘技として生まれ変わりました。1月現在の部員数は10名。監督として指導にあたる際、心にかけているのは、キックボクシングの試合で勝つことを教えるのは当然ですが、格闘技は練習でも試合でも危険や痛みを伴いますし、恐怖心も生

まれます。克服するためにはそれらを忘れるくらい鍛えるしかありません。その意味で反復練習は大事で「人より長く、人より強くやれ」、と単純明快です。誰でも分かりませんが、これはなかなかできません。その環境づくりや動機づけをすることが役目と考えます。就任当初、監督の役割とは、試合に勝つために技術を教えてあげればいいのか、と考えていましたが、全然違いました。個人格闘技でありながら、練習や合宿で団結力を養わせ、やがて「この部に入ってよかった」と思ってもらうこと。それが自分の役割だと今は思います。ブームが衰退時期を迎



えた時は部員数も減り、幾度と存続の危機がありました。そうした困難を乗り越えるために、先代監督の駒田先輩をはじめ多くの諸先輩方が尽力され、2009年には創部40周年を迎えることができました。創部当時の先輩からは「ありがとう」と感謝されました。心機一転、50年、100年と、存続と繁栄のため、まだまだ頑張っていきます。もちろん、全国学生連盟大会での優勝が、まずは目標です。(談)

ちどう けんじろう●1986(昭和61)年、経済学部経済学科卒業。1963年生まれ。東京都出身。卒業する3月にキックボクサーとしてデビューし、プロとして活躍後、紹介により先輩が勤務するエースサービス株に入社し、現在に至る。全日本学生キックボクシング連盟 運営副委員長。

優秀な成績を定着させる基礎をつくり、 数年後にはジムカーナでの優勝へ。



監督
黒住晃一

自動車部の歴史は古く、最初の卒業生は昭和8年と聞いています。当時、自動車は雲の上のような買い物だったでしょうが、時代の最先端ということで、他の大学でもクラブをつくる気運があったようです。それから80年近くが経過しました。

1月現在の部員は10人。全員、男子学生です。活動は全日本学生自動車連盟の下で、全関東学生自動車連盟が主催する競技会への参加が中心です。競技会には自動車運転競技大会が、1年間に全日本と全関東の計2回あります。それと、モータースポーツの入門編的なジムカーナ、山の中のコースを走りスピードを競うダートトライアル、燃費を競うエコラン、

軽四6時間耐久レースと、5種類の競技があります。

運転には学生の性格や個性が現れますので、そうした点を考慮しながら少しずつ修正したり、伸ばしていくことが監督としては求められます。たとえば、スピード競技系ですと、大人しい学生は人を押しのけても前へ、前へとはいかないことが多いですね。逆に、普段は大人しいのですがクルマに乗ると、その逆になってしまうという学生もいます。積極性と冷静さ、それらのバランスを、うまくとっていくことが大切だと思います。もちろん、安全面についての仕組みをつくり上げたり、クルマを運転するルールを徹



底させるなどは最優先課題です。

2008年は、軽四6時間耐久レースで優勝しました。5つ競技がありますが、23年ぶりのことです。2009年は、全日本フィギアで6位に入賞することができました。2010年は、トップクラスの大学に伍して、優秀な成績を定着させたい、基礎をつくっていきたくて考えています。数年後の目標としては、ジムカーナでの優勝という実績を残す。今は、その準備をしている段階です。(談)

くろずみ こういち●1982(昭和57)年、経営学部経営学科卒業。1958年生まれ。岡山県出身。2001年にコーチ、2006年に助監督、2007年、監督に就任。趣味は草レース、絵画鑑賞。座右の銘は「当たり前のことを毎日続ける」。